2006 年 1 月 18 日

セクター：情報･通信業

株式会社ファンダンゴ (3797 ヘラクレス)

ダウンタウンとゴリエとお笑いブームが業績を牽引

今期想定 EPS を 100 円とすると想定公募価格の PER は約 45 倍と、公募価格自体は高めの設定になっている。しかし、当社の場合はお笑いブームを背景とした今期･来期の成長が見込めるほか、エンターテイメント関連の銘柄としての注目度も高く、公募価格設定はむしろ妥当なところだろう。

当銘柄が人気化することは必至と考えられ、初値の段階では PER100 倍程度の 1 万円付近に到達する可能性は十分あると見込む。ただし、現状の収益源は端的にはダウンタウンとゴリエであり、こうした主力コンテンツの需要に陰りが出てきた場合の業績低下リスクは、長期的には存在する。

連結データ (左肩は対前年比 (%)、04.3期は個別)

決算期	04/3	05/3	05/9中
売上高 (百万円)	1,671	5,555	5,178
営業利益 (百万円)	47	817	916
経常利益 (百万円)	48	875	910
当期利益 (百万円)	26	567	310
総資産 (百万円)	392	6,351	7,572
純資産 (百万円)	199	2,512	3,657
株主資本比率 (%)	50.8%	39.6%	48.3%
ROA (%、経常利益ﾍﾞｰｽ)	12.3%	13.8%	12.0%
ROE (%、当期利益ﾍﾞｰｽ)	12.8%	22.6%	8.5%
発行済株式数(修正後、千株)	6,370	6,370	6,370
EPS(円/株)	4.0	89.0	48.7
BPS(円/株)	31.3	394.3	574.0
配当(円/株)	--	--	--

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的とし、証券の売買勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。最終ページに当資料の利用に関する重要な注意事項を掲載していますのでご覧ください。

事業概要～エンターテイメント･コンテンツの企画、制作、配信、販売

当社は、吉本興業の子会社として設立された後、04 年 12 月に香港の音楽コンテンツ制作企業であるロジャム･エンターテイメント･ホールディングスを買収して連結子会社としている。05 年 11 月時点の吉本興業の当社に対する出資比率は 63.5%で、当社グループは、吉本興業の所属タレントとエンターテイメント企業としてのノウハウを活用し、更にロジャムグループが制作してきた音楽･映像コンテンツを利用して、エンターテイメント･コンテンツを企画、制作、配信、販売している。

主な事業は、当社グループが開発コストを負担して二次利用も含む著作権が保有できる自社コンテンツを企画･制作･販売する「コンテンツ開発事業」であり、これを補完する事業として、クライアントの依頼に応じてコンテンツを受託制作する「受託制作事業」、中国上海で展開しているディスコ事業等の「その他の事業」がある。

主な配信コンテンツには、スカイパーフェク TV!での有料放送「ファンダンゴ TV」がある。

収支の状況～ダウンタウンとゴリエが貢献、お笑いブームも追い風か

05.3 期には、CD 販売では「チキンライス」(浜田雅功、槙原敬之)、「Mickey」(ゴリエ)が 35 万枚以上を販売(決算ベースでは 10 万枚)、DVD では「ガキの使いやあらへんで!」(ダウンタウン)シリーズが 80 万枚以上を販売(決算ベース 53 万枚)したほか、お笑いブームを背景にお笑い DVD 作品の販売が好調であった。携帯電話端末によるコンテンツ配信サービスでは、3 キャリア･21 公式サイトで行っており、05 年 3 月末の会員数は約 20 万人となった。

05.9 中間期でも引き続き「ガキの使いやあらへんで!」(ダウンタウン)シリーズが 46 万枚を販売、CD 販売では「Pecori Night」(ゴリエ)等が好調なセールスを記録した。携帯コンテンツ配信では、公式サイト数は 05 年 9 月末で 23 サイトに増加し、会員数は約 23 万人となっている。

[表 1 事業の種類別セグメントの利益状況(百万円、%)]

		コンテンツ開発	受託制作	その他	連結
05.3 期	売上高	4,830	656	68	5,555
	営業利益	794	16	6	816
	利益率	16.4%	2.4%	9.4%	14.7%
05.9 中	売上高	4,686	382	107	5,177
	営業利益	828	63	23	915
	利益率	17.7%	16.6%	17.7%	17.7%

*** 売上高は外部顧客に対する売上高**

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的とし、証券の売買勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。最終ページに当資料の利用に関する重要な注意事項を掲載していますのでご覧ください。

セグメント別の利益状況は表 1 の通りで、主力事業であるコンテンツ開発は売上高も順調に増加している上に、利益率も安定している。他の 2 セグメントは 05.9 中間期に利益率が大幅に改善されている。結局、事業成長のドライバーは現状ではダウンタウンとゴリエに依存していることになる。これらのタレントでのコンテンツの人気がいつまで継続するかが問題となるが、仮にダウンタウン関連コンテンツに陰りが出たとしても、昨今のお笑いブームが追い風になる可能性もある。当面は、業績の低下を心配する必要は無いだろう。

香港ロジャム社を買収した際に、その子会社の超過収益力を認識したことで、当社連結決算では 1,060 百万円の連結調整勘定を計上し、05.3 期から 10 年間で償却を行っている。

株式の状況～ストックオプション等の希薄化要素は無い

当社は 04 年 12 月に 1:100 の株式分割を実施し、05 年 9 月時点の発行済み株式数は 5,570,497 株となっている。上場にあたっての公募が 700,000 株予定されている。オーバーアロットメントは上限 100,000 株で予定されており、この分は主幹事証券会社を割当先とする第三者割当増資となる可能性がある。ストックオプション等の希薄化要素は無い。以上から、上場時点の想定発行済み株式数は、6,370,497 株とした。

目論見書での想定公募価格は 4,450 円とされており、この価格に基づく公募による当社手取り概算額は 3,065 百万円となる。第三者割り当て増資の手取り額は最大 445 百万円と想定されており、これと合算した資金使途は、コンテンツ開発事業の拡大に伴う新規コンテンツの開発費用等に充当する予定。

ベンチャーキャピタルの保有株式は株主名簿上では 795,399 株だが、このほか新生銀行が大株主として 20,000 株保有しており、新生銀行も長期保有しないと考えれば、実質的には約 815 千株となる。

直近の第三者割当増資は、05 年 4 月に吉本興業等を割当先として実施されており、この時の割当価格は 500 円。

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的とし、証券の売買勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。最終ページに当資料の利用に関する重要な注意事項を掲載していますのでご覧ください。

情報開示の状況～平均的な開示水準

当社ウエブサイトには、投資家向け情報開示のページが既に設置されている。現在掲載されているコンテンツは、マネジメント･メッセージと財務ハイライトだけとなっている。財務ハイライトの掲載については評価できるが、上場関連のニュースリリースと上場関連資料の掲載が望まれる。

本資料における個別銘柄に関する注意事項

- EPS･BPS･株主資本比率の計算の元となる、純資産･総資産･株主資本は、各決算期末時点の会社公表数値を用いている。発行済株式数は、自己保有株を含まない。また、株式分割･公募増資･自己株買い入れ等を必要に応じて過年度を含めて修正している場合がある。
- 一株当りの配当は、株式分割･公募増資･自己株買い入れ等を必要に応じて過年度を含めて修正している場合がある。

その他の重要な注意事項

本資料は、投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたものであり、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資対象となる有価証券の価値や投資から得られる収入は、証券価格の変動のほか、発行体の経営･財務状況の変化、金利や為替相場の変動やその他の要因によって変化する可能性があり、投資額を下回る場合があります。また過去の実績は必ずしも将来の成果を示唆するものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いします。

本資料は、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成されたものですが、その情報の正確性･完全性を保証するものではありません。また、本資料に記された意見や予測等は、資料作成時点での当社の判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。

本資料の著作権は当社に帰属し、その目的のいかんを問わず無断で本資料を複写･複製･配布することを禁じます。

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的とし、証券の売買勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。最終ページに当資料の利用に関する重要な注意事項を掲載していますのでご覧ください。